

妙義山

妙義山は山峰の集合体であり、500 万年以上前に最後に噴火したとされる火山の遺構です。最高峰は相馬岳（1,104メートル）です。妙義山は、古代の火山火口の緻密な安山岩に何百万年もの年月をかけて元素が浸食された結果として形成された珍しい岩石で有名です。

妙義山は、その特異な景観から日本三大奇勝のひとつに数えられています。秋には妙義山は紅葉とともに色が変わり、春の終わりには岩の多い景色に様々な種類の桜が咲き乱れます。

ハイカーは特に山の探索を楽しんでいます。関東平野の広大な景色と、間近で見られる独特な奇石の眺め、そして特定のハイキングでそれらの岩山のいくつかをよじ登るスリルを楽しむことができます。複数のトレイルがあり、それぞれ難易度によって等級分けされています。危険な状況において、特定のハイキングコースは閉鎖される場合があります。

古代の人々が、妙義山周辺を古くから神々の聖地と見なしていたという考古学的な証拠があります。轟岩は神が宿る岩山として信仰されてきました。そびえ立つ轟岩に中之嶽神社が建立されており、御神木の杉林に厳かに佇んでいます。山の周辺では、六面石器などの縄文時代（紀元前 1 万年～紀元前 300 年）の先史時代の遺物が発見されています。妙義山周辺の古代遺跡からは、祭祀が行われていたと考えられる轟岩の形をした石器が発見されています。

819 年に創建された中之嶽神社は、日本に仏教を広めたとされる空海（774～835 年、弘法大師の死後の名で知られる）が同地に創建した寺院である。現在は神社だけが残っています。

2005 年、神社に繁栄の神である黄金色の大黒天像が奉納されました。高さ 20 メートルの日本最大の大黒天像です。この建立により、商売繁盛と成功そして良いご縁を祈願します。大黒天は繁栄の象徴である米俵の上に立っており、多くの大黒天像は右手に小槌をもっているが、この大黒天像は右手に刀を持っています。この剣は、経済的な成功をもたらすと同時に、悪を追い払う力を与えると信じられています。

妙義山の東側には妙義神社があり、こちらも古代の宗教遺跡です。妙義神社は、学業の成功や恋の幸運、そして一般的な幸運や商売の成功を祈る人々の間で人気があります。この地域で蚕が一般的に育てられていた頃（20 世紀半ばまで）、農民も蚕のために祈っていました。急な石段を登って行くと、18 世紀に建立された素晴らしい神社を参拝することができます。